

東海北陸自動車道(富山県南砺市)で交通事故死した 二ホンツキノワグマの年齢

著者	南部 久男, 後藤 優介
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	31
ページ	103
発行年	2008-02-25
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=868

短 報

東海北陸自動車道（富山県南砺市）で 交通事故死したニホンツキノワグマの年齢*

南部 久男¹⁾・後藤 優介²⁾

¹⁾富山市科学博物館

939-8084富山市西中野町1-8-31

²⁾立山カルデラ砂防博物館

930-1405中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂68

Notes on age of a road-killed Japanese black bear (*Ursus thibetanus japonicus*) from Nanto City, Toyama, Central Japan.

¹⁾ Hisao Nambu and ²⁾ Yusuke Goto

¹⁾ Toyama Science Museum

1-8-31, Nishinakanomachi, Toyama, 939-8084, Japan

²⁾ Tateyama Caldera Sabo Museum

68 Bunazaka, Ashikuraji, Tateyamamachi

Nakaniikawagun, Toyama 930-1405, Japan

富山県産のニホンツキノワグマの年齢査定については、富山県（1990）の報告や、大量出沒した2004年の捕獲調査書の年齢（推定）の報告（富山クマ緊急調査グループ他，2005）がある。筆者らは、南砺市で交通事故死したニホンツキノワグマの外部計測値や剖検結果等について報告した（南部他，2007）。今回、この個体を用い年齢査定を行ったので報告する。

調査個体と年齢

調査した個体は2006年9月2日、富山県南砺市田下（旧上平村）の東海自動車道上り線で、乗用車と衝突し死亡した、体重49kg、全長1290mmのメスである（南部他，2007）。

年齢査定は、第二前臼歯を抜歯し、セメント層を観察した。年齢査定の手順については八谷他（1994）に従い、若干の変更を加えた。概要を述べると、脱灰（2昼夜）、中和（1昼夜）、水洗（一晚）、薄切、染色、検鏡の手順で行なった。薄切には凍結ミクロトームを用いて40μ程度の薄片を作成し、カラッチヘマトキシリン液で染色後、20～50倍の実体顕微鏡を用いて検鏡した。

今回の個体は満10歳であった（図1）。富山県

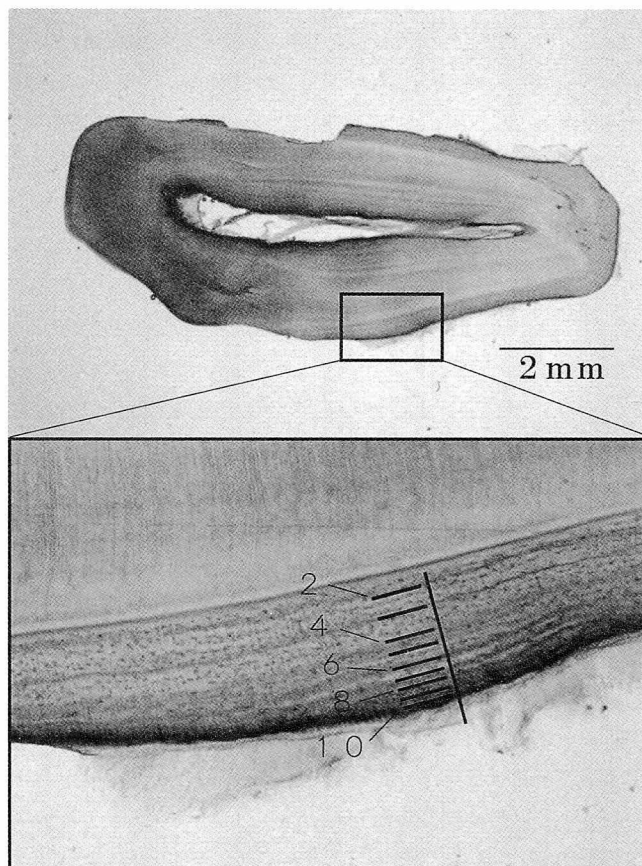


図1 染色した第二前臼歯の薄片
（濃染色部をカウントした。数字は満年齢）

（1990）によれば、富山県産の40個体（オス12個体、メス23個体、不明5個体）で、オスの年齢幅は1～22才で、1～11才が10個体を占め、メスの年齢幅は、2～19歳で、2～14才が21個体を占め、雌雄とも15歳を超える個体は希である。今回の個体は成熟したメスの個体である。

文献

南部久男・後藤優介，2007. 東海北陸自動車道（富山県南砺市）で交通事故死したニホンツキノワグマについて. 富山市科学文化センター研究報告. (30), 81-83.

富山県，1990. クマ生息数調査報告書. 47pp.

富山クマ緊急調査グループ・日本クマネットワーク（JBN），2005. 富山県における2004年のツキノワグマの出沒状況調査報告書. pp.112+CD.

八谷昇・大泰司紀之，1994. 骨格標本作製法. pp.99-105. 北海道大学出版会.